

4-5 GPSによる初島-川奈間の地殻変動連続観測

GPS Measurement of a Baseline Vector between Hatsushima and Kawana

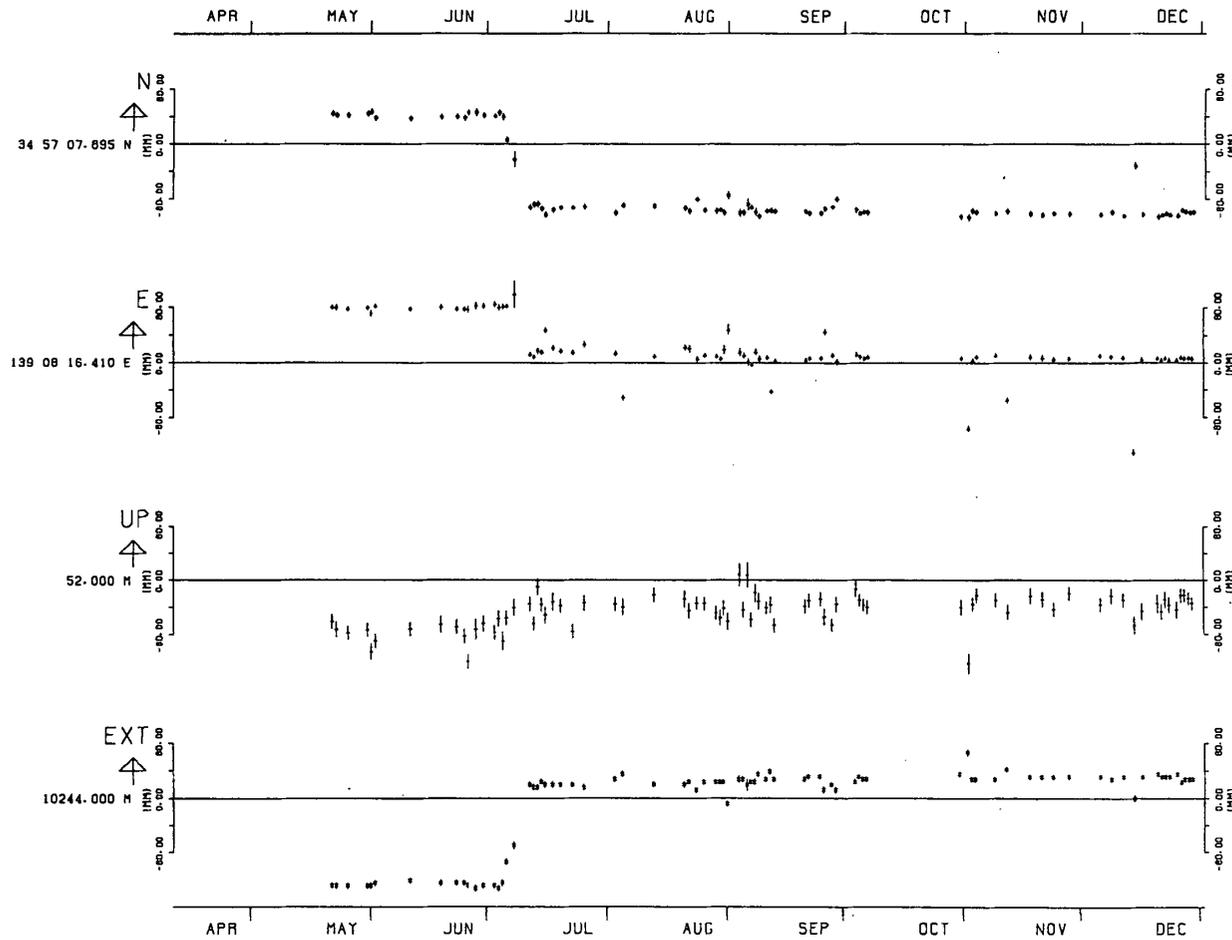
防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

初島-川奈間においてGPSによる地殻変動連続観測を行った。観測時間は毎日4時間、サンプリング間隔は30秒である。4つ以上の衛星を用いている。衛星軌道情報は放送歴を使用している。初島観測点（HTS）を固定した場合の解析結果を第1図に示す。計算上の誤差量も同時に縦線で示してある。手石海丘噴火前の7月4日から11日間に、川奈観測点（ITO）は初島観測点（HTS）からみて相対的に南南西、上方向に移動し、距離は離れている。その後は、わずかにだが同じ方向の変動を示しているようである。1990年1月に観測結果がないのは受信データの欠測の為である。また、太陽活動等により解析誤差が大きい場合やサイクルスリップが除去できなかった場合は省略してある。2月以降に結果が抜けているのはこの為である。（関口渉次・大見史朗・藤縄幸雄）

ITO POSITION RELATIVE TO HTS

1989



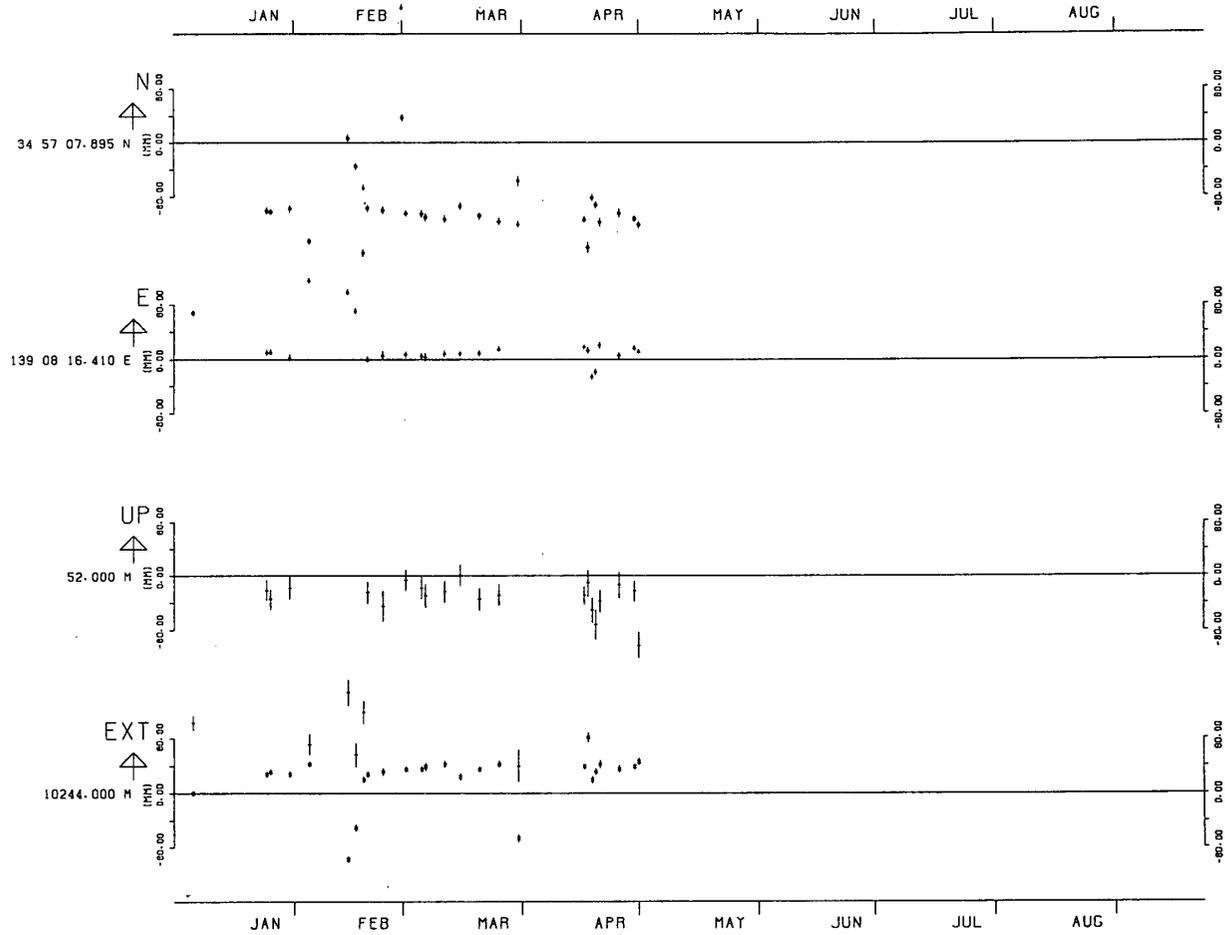
第1図 初島観測点 (HTS) を固定点にしたときの川奈観測点 (ITO) の位置。

上から南北成分、東西成分、上下成分、基線長を示す。

Fig. 1 Time variations of the Kawana site (ITO) relative to Hatsushima site (HTS). Latitudinal, longitudinal and vertical components and the baseline length are shown.

ITO POSITION, RELATIVE TO HTS

1990



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)